

東海自然誌－静岡県自然史研究報告－ 投稿規定

Guide of Preparing Manuscripts for Natural History of the Tokai District

1. 本研究報告は、静岡県の自然環境または自然史に関する調査研究、またはそれらに関する資料・標本についての報告書とし、特定非営利活動法人静岡県自然史博物館ネットワークが発行するものである。
2. 本研究報告の第一著者は、特定非営利活動法人静岡県自然史博物館ネットワークの会員（正会員）に限るが、共著の場合に著者にそれ以外の者を含むことはさしつかえない。
3. 本研究報告には、内容や形式により、原著論文、総説、短報、資料などの種類を設ける。
4. 本研究報告の原稿は、他の刊行物に発表されていないものに限る。また、その内容や形式は、著者の責任において十分に検討されたもので、別に設ける「原稿作成要領」に従う。
5. 本研究報告に投稿された原稿は、専門分野の研究者による査読意見をもとに、著者による修正などの手続きを経て、掲載については最終的に編集委員が審査する。専門分野によっては、当ネットワークの会員外の研究者に依頼して査読を行う場合もある。
6. 受理した論文など著作物の著作権は、当ネットワークに帰属する。

原稿作成要領

原稿は和文または英文とする。原稿の構成は、表題、本文、引用文献の順で作成し、図表及び写真とそのキャプションから構成される。原著論文では、それに英文要旨（Abstract）、要旨の直訳を作成する。原稿は刷り上がりページ数によって超過料金を求めることがある。

表題 表題、著者名、所属及び住所（郵便番号必記）を本文とは別の紙に和文及び英文で上記の順に行を改めて書く。表題を省略した Running head（ハシラ）を和文原稿は和文（20 字程度）で、英文原稿は英文（30 字程度）で指定する。

原稿 原稿は原則として文書作成ソフトを使用して作成し、図表などを含め紙面出力原稿2部(1部はコピー)を提出する。受理後に、確定した文章のテキストファイルと写真、または図表や画像の電子ファイルを CD-R など電子記憶媒体で提出する。

和文の紙面出力原稿は A4 判縦置きで、横書き、1 行全角 36 字程度、30 行程度で、行間をあけて上下左右に 3 cm 程度の余白をとる。句読点はピリオド（.）とカンマ（,）を用いる。英文原稿は、A4 判縦置きで横書き、30 行程度で行間をあけて和文原稿と同様な余白をとる。

学名の属名と種名は、紙面出力原稿にイタリック指定を示す赤の下線を引く。和名の場合には、カタカナを用いる [例： Homo sapiens]。特殊文字や記号、外字、下付小文字などの指定については紙面出力原稿に赤で指定する。脚注は原則として用いない。

本文中に文献を引用するときは著者の姓と年号（カッコで囲む）で表す。たとえば Nishimura (1975) studied ..., ... いくつかの研究がある (岩下, 1975 ; 西村, 1978)。等とする。著者が 2 人以上の場合は、岩下・西村 (1975) とし、3 名以上は Nishimura et al. (1975)、西村ほか (1975) のように書く。

図（写真を含む）及び表 図表はそのまま写真版下になるよう作図，作表したものを提出する。または，図や表，写真が電子ファイルの場合，投稿時には紙に出力して印刷サイズと図表番号などを明記したものを提出する。受理後にそれらのファイルを CD-R など電子記憶媒体として提出する。写真の電子ファイルの場合，350 dpi 以上で指定サイズ大の容量をもつものにする。カラーページを希望する場合は別途料金がかかる。

図表の表題と説明文（キャプション）の原稿は別の紙に順を追って書き，本文中には書かない。図表には著者名と図表番号を明記する。

引用文献 本文中に引用した文献のみを著者の姓のアルファベット順に別紙に並べ，番号はつけない。引用文献表記の形式は著者名（欧文文献の主著者は姓を先に，第2著者以後は姓を後に），西暦年（カッコで囲む），表題，雑誌名（単行書のときは書名），巻（号）（号のみの場合は巻の表記と同じ），p. 頁-頁とし，単行書のときは表題のあとに出版社，発行都市，総頁数 p. の順に記載する。雑誌名の書名は頭文字を大文字で書く。巻と号はアラビア数字とし，ローマ数字を用いない。編著の場合は，編：書名，を加える（英文では In ... ed. : ...）。同一著者が単独と他との共著で現れる場合は，単独の文献に続いて，2人共著，3人共著……の順に並べる。著者が何人いても，A ほか，A et al. とはせず，A・B・C・D（和文文献），A, B, C and D（欧文文献）のようにする。同じ著者の論文が続く場合，著者名を略さず，また同じ雑誌名が続くような場合も Ibid. 等で略さず全部書く。引用文献の表記については下の例を参照。英文論文中に和文の文献を引用するときは，各文献の末尾にカッコをつけて（in Japanese with English abstract），または（in Japanese）と付記する。web page の引用については，文献引用にならない，掲載サイトを明記して URL を表記する。

〔引用文献の表記例〕

鎮西清隆（1980）掛川層群の軟体動物化石群，その構成と水平分布。国立科博専報，13号，p. 15-20.

Haq, B. U., J. Hardenbol and P. R. Vail (1987) Chronology of fluctuating sea levels since the Triassic. *Science*, v. 235, p. 1156-1166.

星野通平（1976）駿河湾のなぞ，沈黙の海底と生きている化石。静岡新聞社，静岡，253 p.

久保田 正（1995）ミズウオの鳴らす警鐘。佐尾和子・丹後玲子・根本 稔編：プラスチックの海，おびやかされる海の生きものたち，海洋工学研究所出版部，東京，p. 67-74.

Shibata, K., S. Nishimura and K. Chinzei (1984) Radiometric dating related Pacific Neogene planktonic datum planes. In Ikebe, N. and R. Tsuchi eds. : Pacific Neogene datum planes, contributions to biostratigraphy and chronology, Univ. Tokyo Press., Tokyo, p. 85-89.

安田 進（2009）2009年静岡県沖の地震の現地被災調査メモ。日本地震工学会，2009年8月駿河湾の地震に関する情報，<http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/files/090811suruga4.pdf>.